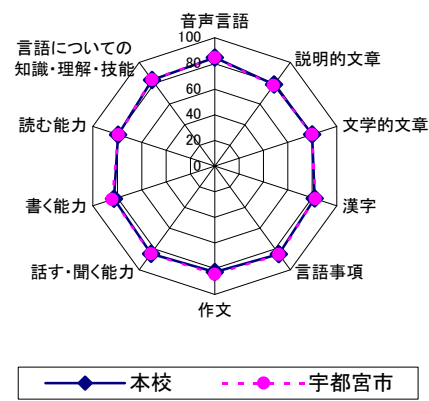


宇都宮市立宝木小学校第5学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

|     |                 | 本年度  |      |
|-----|-----------------|------|------|
|     |                 | 本校   | 宇都宮市 |
| 領域別 | 音声言語            | 84.4 | 84.7 |
|     | 説明的文章           | 78.6 | 77.9 |
|     | 文学的文章           | 79.8 | 79.7 |
|     | 漢字              | 81.8 | 82.3 |
|     | 言語事項            | 84.8 | 85.0 |
|     | 作文              | 82.5 | 84.3 |
|     |                 |      |      |
| 観点別 | 話す・聞く能力         | 84.4 | 84.7 |
|     | 書く能力            | 82.5 | 84.3 |
|     | 読む能力            | 79.2 | 78.8 |
|     | 言語についての知識・理解・技能 | 83.0 | 83.4 |
|     |                 |      |      |



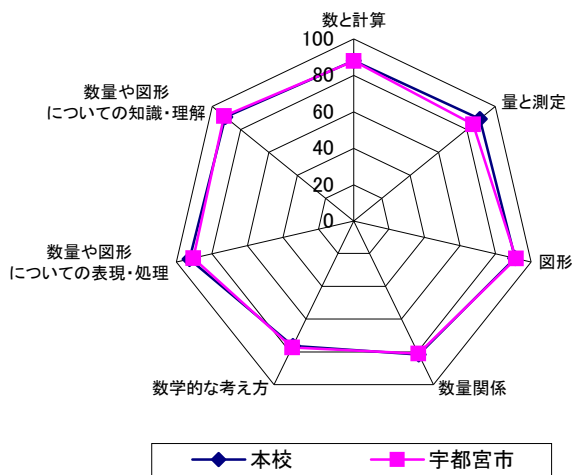
★指導の工夫と改善

| 領域               | 本年度の状況                                                                                                            | 今後の指導の重点                                                                                                                            |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 音声言語<br>(84.4%)  | ・平均正答率は、市平均正答率よりわずかに下回っている。話の内容の聞き取り、話の中心の聞き取りに関する問題の正答率が低かった。                                                    | ・話を聞くときに、話の中心や話し手の意図、話の内容を聞き取ることができるよう「話を聞く態度」から意識させたい。各教科はもちろん、日常生活においても重点的に指導していくようにする。                                           |
| 説明的文章<br>(78.6%) | ・平均正答率は、市平均正答率をわずかに上回っている。指示語の内容の理解、段落と段落の関係に関する問題は正答率が高かった。しかし、文章全体の内容の理解、文脈に即した内容の理解、接続語の補充に関する問題は正答率がやや低かった。   | ・説明文の学習では、形式段落ごとに大事だと思う文や言葉、文末表現から要点をまとめ、段落どうしの関連から文章全体の構成を考えるようにさせる。作文指導でも接続語の使い方を意識させていきたい。                                       |
| 文学的文章<br>(79.8%) | ・平均正答率は、市平均正答率とほぼ同じであった。文脈に即した内容の理解、場面の移り変わりに関する問題は正答率が高かった。しかし、登場人物の心情に関する問題は正答率が低かった。                           | ・日常生活においても文学的な文章に慣れ親しませる時間をとるようにさせる。授業では、丁寧に読み進めていき、情景や登場人物の心情を読み取るようにさせる。                                                          |
| 漢字<br>(81.8%)    | ・平均正答率は、市平均正答率よりわずかに下回っている。第5学年の漢字の読み、第4学年の漢字の書きに関する問題は正答率は市平均を上回ったが、第5学年の漢字の書きは市平均を下回った。「往復」は約1割の児童が無解答(無記入)だった。 | ・家庭学習においても漢字練習や短文作りを継続的にを行い、定着を図っていく。送り仮名のある漢字は、活用を意識して練習するようにさせる。漢字(和)辞典の使い方に習熟させ、不明な漢字をいつでも調べられるようにさせる。また、小テストなどを繰り返し行い、定着の確認をする。 |
| 言語事項<br>(84.8%)  | ・平均正答率は、市平均正答率をわずかに下回った。修飾語、品詞の識別(動詞)、敬語(尊敬語)に関する問題は正答率が高かったが、言葉の意味に関する問題は正答率が低かった。                               | ・漢字と同様に、文章中に意味の分からない語句が出てきたときには国語辞典を引いて調べる習慣を身に付けさせる。文法については、さらに定着を図るように、練習問題を行うようにする。                                              |
| 作文<br>(82.5%)    | ・平均正答率は、市平均正答率を下回っている。他の小学校の児童会に質問の手紙文を書く問題であったが、はじめのあいさつ、理由と質問の文、後づけを入れて書くということができなかった。                          | ・目的に応じた手紙の形式を理解させる。そして、手紙を書く機会を設け適切な手紙が書けるように指導していくとともに今後の生活に生かすようにさせる。<br>・家庭学習でテーマを決めた短作文を書かせ、書く力を高めるようにする。                       |

宇都宮市立宝木小学校第5学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

|     |                 | 本年度  |      |
|-----|-----------------|------|------|
|     |                 | 本校   | 宇都宮市 |
| 領域別 | 数と計算            | 88.0 | 87.9 |
|     | 量と測定            | 89.2 | 84.3 |
|     | 図形              | 90.8 | 91.5 |
|     | 数量関係            | 81.6 | 81.0 |
|     |                 |      |      |
| 観点別 | 数学的な考え方         | 76.2 | 77.2 |
|     | 数量や図形についての表現・処理 | 92.6 | 90.3 |
|     | 数量や図形についての知識・理解 | 90.7 | 91.5 |
|     |                 |      |      |
|     |                 |      |      |



★指導の工夫と改善

| 領域              | 本年度の状況                                                                                                                                        | 今後の指導の重点                                                                                                                                               |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算<br>(88.0%) | ・領域の正答率は、市平均正答率とほぼ同じである。出題内容別にみると、小数と整数の除法、小数のしくみ、偶数と奇数に関する設問の正答率は、市平均正答率を下回った。小数と整数の除法の計算では、商に小数点をつけていないという解答、小数の乗法の文章題では、除法の文章題と間違えた解答があった。 | ・乗数が小数になる文章題の問題であるが、ことばの式に表し、整数の場合と同じであることを確認して式の意味を理解させ、つまずきを取り除くように指導をする。<br>・既習事項を確認し、さらに補充問題を解くことを通して習熟を図りたい。                                      |
| 量と測定<br>(89.2%) | ・三角形、平行四辺形、ひし形の面積に関する設問の正答率は、市平均正答率を上回った。                                                                                                     | ・図形の面積を求める問題は、公式を利用し正確に求められるように練習問題を解くことを通してさらに習熟を図るようにする。                                                                                             |
| 図形<br>(90.8%)   | ・平均正答率は、市平均正答率を下回った。合同な図形の性質、平行四辺形に関する設問の正答率が低かった。                                                                                            | ・移行措置として扱った「合同な図形」はらず、回す、裏返す操作で重ね合わせることができるが、それらを念頭操作で行うことが苦手な児童もいる。対応する頂点、辺、角を調べる場合には、図形を紙に写し取って実際に操作することで見つけさせるように指導してきたが、つまずいた児童には時間をかけて復習に取り組ませたい。 |
| 数量関係<br>(81.6%) | ・平均正答率は、市平均正答率とほぼ同じだった。分配法則を理解し、正しい式を書くという設問だったが、分配法則を理解できていない解答もあった。                                                                         | ・計算のきまりについては、ドリル学習を進めながら習熟を図る。計算の基礎が不十分児童には、つまずきを取り除くように個別指導をする。                                                                                       |
|                 |                                                                                                                                               |                                                                                                                                                        |
|                 |                                                                                                                                               |                                                                                                                                                        |